



も進められています。この方面での可能性はどうお考えですか。

片峯 特にこれからもニーズが拡大するIT産業について本格的に進めていきたいと思っています。ただ、十数年前に情報工学分野の産業振興をスタートしたところまでは良かったのですが、なかなか時代の流れには乗れず、継続的な取り組みがあまりできていないのが実状です。

また、飯塚市内には九州工業大学、

近畿大学、近畿大学九州短期大学の3大学がありますが、がっちりスクラムを組んで連携するという体制ではありませんでした。これからはそういう部分も修正を加えながら、しっかりと未来に通用する都市にしたいと思い、幅広い形での産業振興に向けて企画立案しながら動いているところです。

地域イメージ払しょくによる人材確保で地域活性化

—現在の主力事業である再生可能エネルギー事業は故郷への思いがきっかけと聞きました。

野見山 自分が食べていければという仕事の基準から、地域のために貢献できる仕事をしていかなければと思います。始めていた頃、ちょうど電力会社に再生可能エネルギーで発電された電気を一定期間、固定価格で買

野見山 情報工学のお話に関連して言えば、学生向けマンシヨン事業を展開する中で、18歳人口減少による入居率の低下という危機に直面したことがあります。

その際、満室入居を目指して学生からニーズをヒアリングすると、当時はまだダイヤルアップのインターネット接続の時代でしたので、ネット費用が高く、それを抑えたいという

—取組のことを義務付けた制度（FIT）がスタートし、再生可能エネルギー事業も面白いのではないかと感じました。

もともと筑豊は全国有数の産炭地として成り立っていましたので、その街が今度は再生エネルギーの街として活性化できるのではないかとひらめいたんです。太陽光発電事業で



飯塚市有安のティーティーエス企画飯塚事務所

特別×対談 「未来の飯塚市、これからの街づくり」

福岡県の中央に位置し、交通の要衝としての役割を担ってきた飯塚市。石炭産業隆盛の時代には、筑豊炭田の中心地として賑わい、エネルギーの街として日本の産業振興をけん引してきた。しかし、1960年代のエネルギー革命によって石炭から石油への燃料転換が起こり、石炭産業が衰退。2006年には5つの市町が合併し、新「飯塚市」としてスタートを切り、新産業の創出や教育水準の向上、医療・福祉の充実などに取り組み、魅力ある街づくりを進めている。

今回の対談では地元飯塚の未来に向けて、同世代でもある片峯市長と野見山社長に行政と企業の両面から今後の提言を聞いた。

雇用創出で未来に通用する都市へ

—まずはお二人の自己紹介からお願いします。

片峯 ももとは中学校教諭で教育行政に従事し、飯塚市教育委員会教育長を7年務めた後、今年2月に飯塚市長に就任致しました。学生時代は第一薬科大学で薬剤師を目指していたのですが、在学中の学校実習において、教育に対する未来と喜びを感じたことで、当時の福岡大学高宮校に夜学で通い、教職の道へと進みました。市長として、飯塚の街を元気にしたいと思っています。

野見山 佐賀大学経済学部経営学科を卒業して就職しました。勉強ができる方ではなかったのですが、漠然と社長になりたいという起業意識を持っていましたので、その年の12月には地元飯塚に戻り、不動産活用業として現在の(株)ティーティーエス企画を創業しました。

実家は小さな地主でしたが、田舎の田畑はそのままではお金を生みません。ですからまずは土地を活用してお金を生む資産に変えようという観点で、近畿大学の学生寮や九州工業大学の学生向けのワンルームマンションなどをつくることから始めま

した。土地の調達や資金面など、さまざまな金融機関に育てていただきながら事業展開してきました。

—地元飯塚に対する思いについてお聞かせしたいと思います。片峯市長は教育を通じて地元へ貢献してこられました。

片峯 学校教諭として子ども達を育てたいという思いで選んだ仕事です。教育から離れることは想定外でしたし、まさか自分が市長に立候補するとは思っていませんでした。立候補の際にも非常に悩みましたが教育界の中では私自身、一定の成果を上げることができたと自負しております。そしてそれを継続させたいという思いとともに、子ども達が社会人になった時に、この地域に自らが望む働く場所があるのかという心配もあつたことで立候補しました。経済分野に関しては勉強中であり、そういった面では野見山社長をはじめ、企業経営者の方々にアドバイスをいただきながら雇用創出を進めていきたいと考えています。

—飯塚市は大学との連携も含めてリサーチパークなどの情報工学分野における産業振興に関する取り組み



片峯 誠
Makoto Katamine
飯塚市 市長

1956年3月30日生まれの61歳。第一薬科大学薬剂学科卒業後、飯塚市内の中学校教諭となり、2008年に飯塚市教育委員会学校教育課長、10年に福岡県筑豊教育事務所副所長、同年から7年間にわたり飯塚市教育委員会教育長を務めた。17年2月に飯塚市長就任。趣味は読書、家庭菜園、ゴルフ。

方針です。

―飯塚市は人口が約13万人ですが、減少率は決して高くないです。その意味では若い世代の流出を防ぐということが今後の街の発展に大きな意味を持ちますね。

片峯 その通りです。だからこそ、これまでとはともに動くということがなかった自治体と民間企業が協力し、いまイメージを変えることができなければ自治体間競争に埋もれていくことにもなると思います。企業の皆さんにご協力いただきながら、イメージ回復と受け皿の整備による人材確保に最大限努力したいと思います。

―その中で、お二人の考える飯塚市の未来構想はどういったものでしょうか。

片峯 パラリンピックのキャンプ地誘致に全力を挙げています。誘致を機会として、子どもにも、お年寄りにも、障害がある方にも優しく接することができる街・飯塚にもしたいと思っています。そのための市民の共通目標としてキャンプ地を誘致し、そういう取り組みが当たり前である風土にしていきたいですね。

また、飯塚はインフラ整備が整っており、小中学校は全国平均を超え

る教育水準で、市内4校の高校の状況も極めて上向きです。医療環境も十分ですが、唯一の問題は経済力にあります。企業それぞれがさまざまな取り組みをされていますので、市は企業間連携の橋渡しをすることで、働きたくなる場所のある街にしていきたいと考えています。

―企業側の立場からするとどうでしょうか。

野見山 地元の大学からのリクルートはもちろんですが、これまでに飯塚を出ていった優秀な人材も多くいます。その人達が地元に戻ってきて仕事をしたいと思える企業を増やしていきたいという気持ちが強いですね。

これについては私自身、ひとつの実験の意味合いと、社会勉強も含めて子ども3人を東京の大学に行かせました。一般的には一度中央に出てしまふとなかなか故郷に戻ってこないのですが、うちは3人とも飯塚に帰ってきました。長女は医師になりましたが、次女と長男は我が社で一生懸命働いていますし、子ども達が大学で培った人脈を生かして人材の確保にもつながっています。

子ども達には自分が主体となって動き、働くことの面白さを感じられ

アが全国に広がったからこそ、飯塚市にしっかり根を生やしたいという思いがより強くなっています。地域からの雇用創出によって地域に貢献したいという方針です。

しかし、せっかく飯塚に九工大や近畿大があり、優秀な学生もいるのに飯塚本社の企業ということで、そういった人材を確保できないというジレンマを抱えていることも事実です。イメージの問題でしょうね。

―これについて片峯市長はどうお考えでしょうか。

片峯 まず地域イメージということに関して言えば、教育分野で私も感じていました。「やっぱ筑豊やね、所詮は筑豊やね」という言葉を教育界でも聞いており、非常に残念

な思いとともに、何とかしたいという気持ちを持つてきました。このイメージを払しょくするには、今しかチャンスはありません。筑豊地域にはティーティーエス企画さんをはじめとして、特色を持った良い意味で尖った企業がたくさんあります。だからこそ九工大や近畿大の学生と地域企業をマッチングする取り組みを行政として力を入れていきたいと思っています。

また、イメージ払しょくのためには自ら新たな情報を発信していく必要がありますので、7月からイン스타그램などのSNSを利用して行政情報の発信を始めました。今後は地域企業の情報や特色なども積極的に発信し、人材確保を支援していく

る会社にするから自信を持って友人

を連れてきていいと伝えています。そのためには経営者としても親としても、大きな責任がありますから、有言実行できるように取り組んでいます。しかし、まだまだ私の壮大な

実験の真っ最中です（笑い）。

片峯 素敵ですよ。市役所でもそういう考え方は取り入れていきたいです。やはり個々の力が高いとチームとしてもハイレベルな仕事はできませんから。

片峯市長

行政と企業、市民が一体となった街づくりを

野見山社長

エネルギーの地産地消で地域に貢献

―野見山社長の目指す会社とはどのような姿ですか。

野見山 電力事業参入の規制緩和により、不動産活用から太陽光発電にシフトし、そこからさまざまな再生可能エネルギー事業に目を向けるようになりました。エネルギーは地域にとって不可欠なものですから、

この再生可能エネルギー事業を主軸に、地域への電力供給だけでなく、雇用創出という形で貢献していきたいと考えています。

すでに苅田港で50メガワットのバイオマス発電所建設の許可も受けており、そこに必要な海外からの資材調達なども進めています。飯塚本

しも面白いと思います。

野見山 「エネルギーの地産地消」ですね。それはまさに私達が目指していることです。私の人生をかけた実験として今後も進めていきたいと思っています。その中で片峯市長には無理難題も申し上げるかもしれませんが…（笑い）

片峯 常に地域のことを思っている方だということとは多方面からの声をお聞きして承知しておりま

すので、野見山社長を信じてどんどん協力していきたいと思っています。―それでは最後にそれぞれ抱負をお願いします。

片峯 こうやって行政や企業が考えていることを市民に発信し、ともに地域の未来をつくりあげていくことを目指します。

野見山 抱負とは少し異なりますが、先日、福岡県内の大学を卒業した海外留学生の就職先紹介の案内が来たんですね。私としては海外の優秀な人材が採用できると喜んで手を挙げました。しかし、「福岡市本社の企業に限る」という条件があり、とてもがっかりしました。

飯塚の活性化のためにはこうした地域性の問題を解決し、優秀な人材を確保して能力を発揮してもらうことが不可欠です。どうしても私達だけではできないこともありますので、是非、片峯市長にも橋渡しをお願いしたいですね。

片峯 とても心強いです。現状に問題提起できる意識をお持ちの方しかチャレンジ精神は湧いてきませんから。福岡市に負けないぞという気概を持って、地域活性化に向けたさまざまな取り組みに挑戦していきたいでしょう。



野見山 俊之
Toshiyuki Nomiya

株式会社ティーティーエス企画 代表取締役社長

1955年2月22日生まれの62歳。佐賀大学経済学部経営学科卒。1997年4月、不動産管理業などの(有)ティーティーエス企画を設立し、その後インターネット、介護保険、飲食店など、多角的に事業を展開。2013年2月から再生可能エネルギー事業に参入し、全国で太陽光発電所を建設している。趣味はスキー、ゴルフ。